いわみざわ市

室内公園 色彩館 SHIKISAIKAN
岩見沢市志文町７９４

緑の相談コーナーだより

No.458
2023年　8月 1日発行

いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

今月の便り

相談コーナーから。台木

園芸植物の苗は「接木」という技術が使われているものがあります。強い品種を台木にしてその上に育てたい枝を継ぐのです。先日「数年前にライラックを買って植えたが、花が違う気がする。」と言って写真を見せてくれた相談者がいました。見ると確かに花が違います。台木ではないかと思いインターネットで検索してみると、ライラックの台木には「イボタノキ」が使われる。とありました。今度はイボタノキを検索して相談者の持ち込んだ写真と見比べるとまさしくイボタノキの花でした。ライラックの台木にこの木を使っていることは私も知らなかったので勉強になりました。バラも台木が成長してしまうことがあります。耐寒性が弱い品種は北海道の冬に耐えきれず地上部が枯れて春に台木が芽吹いたり、地上部がなんとか冬を越したものの成長がぐずぐずしているうちに暖かくなって、根本から元気な台木が強いシュートとして出てしまったり。花が咲かないとか一重のバラが咲いた場合はおそらく台木になっています。怪しい枝が出てきた時点で葉をよく観察して台木かどうか見極めましょう。そして台木だった場合は根本からきっちり切ってください。（きのした）

オケラ

オケラと聞いたらふつうは昆虫のオケラを思い浮かべますよね。でも昆虫のオケラは、本当は「ケラ」で「オ」はお花のおと同じです。では植物のオケラとはどんな花でしょうか。オケラはキク科オケラ属の多年草で北海道を除く日本各地に分布し高さ50～60センチになる植物です。日当たりの良い野原や明るい雑木林の林縁などに見られます。白い毛におおわれた若菜を食用にし、根を正月の御屠蘇に使うことで知られます。万葉集の時代からウケラとして親しまれ、これが転じてオケラとなったといわれています。花は初秋に咲き、枝先にアザミに似た白い小花を咲かせます。花の外側にある「総苞葉」は魚の骨のように細かく切れているのが特徴です。雌雄異株で雌花と両性花があり種にはタンポポのような綿毛が付きます。花はドライフラワーや茶花などに利用します。オケラに比べ葉が細いホソバオケラは中国に自生する多年草で、江戸時代中期に渡来し尾張、佐渡で栽培されていてサドオケラとも呼ばれていました。また花が紅紫色のオオバナオケラ、本州以南の海岸にはえるハマオケラなどがあります。いずれも寒さに強いので北海道でも栽培することができます。（いとう）

つむじがふたつ～ツルアリドオシ

常緑性で多年草のツルアリドオシ属には本種と北米東部に分布するレペンス種の２種があり、茎の節から根を出して株が広がっていきます。日当たりがやや悪い林内、林縁で背の高い草で覆われていない裸地で見ることができ、初夏に１センチ程で４弁の白い花を咲かせます。漏斗状の花冠から雌しべが顔を出した長花柱花とそうでない短花柱花があり、ひとつの株はそのどちらかだけで構成されています。地面を這い、枝分かれしながら40～50センチほど枝を伸ばし、それぞれの先端に２つで一組の白い花を咲かせます。受粉するとやがてふたつの子房が肥大するとともに合着し、直径８ミリほどの果実ができるので、ふたつの花柱の痕跡が旋毛（つむじ）のように残るのが印象的です。残念ながら実は美味しくはありませんが、冬まで脱落せず鑑賞することができます。（かわはら）

＊「今月の便り」　次ページへつづく⇒

タリクトラム・デラバイ

草丈 1-2m 学名 Thalictraum delavayi 科名 キンポウゲ科。小さくて丸い藤色の花がクス玉のように、パカっと開いて開花する姿は繊細で美しく、和にも洋にも似合う花です。盛夏から初秋にかけて咲く立姿は遠くから眺めるとフワフワながら、シャキンとして勇ましささえ感じます。今では園芸品種も多くご自分の庭サイズに合う好みの品種を探すのも楽しみの一つです。先日、花愛好者の方のお庭で拝見した見事な株は 2.5m 超えで林立し見事な景観を作っていました。冬は地際まで枯れ込みますが、翌春は元気よく生育する植物は魅力的です。（たかはし）

「青じそ」と「大葉」

「青じそ」と「大葉」の違いは ？ 実のところは、どちらも「シソ科シソ属アオジソ」という植物のことを指している。つまり植物としてはどちらも同じ青じそである。じゃあなんで、青じそのことを大葉と呼ぶの？という話だ。それは商品化する際の都合のようです。青じそという植物は双葉として芽吹いたばかりの､「芽じそ」の状態と､葉っぱが大きく成長した「葉じそ」の状態、どちらも食材として利用できる。しかしそれぞれ見た目も違えば、料理に使うときの用途も変わってくるため、成長段階でその呼び方を区別して売る必要があったのだ。そこで葉じそに付けられた商品名が「大葉」である。「青じそのなかでも、芽吹いたばかりのものではなく､葉っぱが大きく成長した状態のもの」として､このネーミングはわかりやすい！葉じそが最初に大葉という名前で出荷されたのは 1961 年のことで、静岡県の生産者がそう呼び出したのが始まりだという。やはりわかりやすかったのか売り上げがよく、そこからどんどん全国区の呼び名になっていったのだが、どうやら地域差もあるようだ。（ながやす）

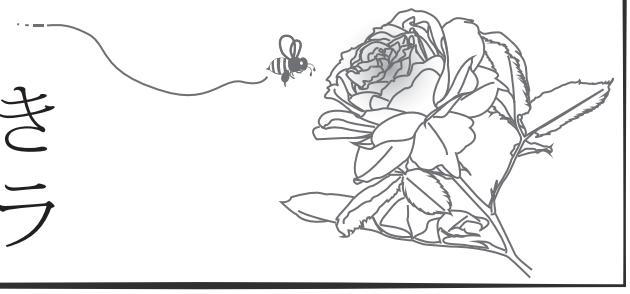
緑の相談コーナー　Ｑ＆Ａ

長年相談員を行っている中で、類似質問で多いのを家庭菜園に関する「Ｑ＆A」として連載で紹介いたします。

Ｑ．ナスの木の枝はたくさん出ているが丈が短く、花が咲いてもすぐ落ちて実がならないのはなぜ？
Ａ．ナスの木に一番花が咲いているところ（分岐枝）より下枝は取っていますか。この下枝に栄養がとられて、一番花より上には養分不足となって実がつきにくいです。苗を植えて定着して一番花が咲いたら、花より下枝は取り除いてください。
また、ナスは肥料食いですから追肥をこまめに与え、実がなりだしたら、少し多めの水を土が乾いたら与えてください。なお、ピーマン・シシトウなどナス科のものは同様ですが、ナンバンは、同じナス科のものから遠く離して植えなければ、ナンバン特有の辛みがなくなります。

Ｑ．トマトが赤くならないのはなぜ？
Ａ．トマトの生育には強い光が必要であり、光が不足すると軟弱徒長し、花数が少なく、花質も落ち、落花も多くなります。そのため、日当たりのいい場所で栽培するようにしましょう。
ナス科の野菜と連作をしていませんか。例えばナスの後にトマトは連作障害の可能性が考えられます。トマトは実がついてから、大玉は５０日から６０日、ミニ、中玉は４０日から５０日がかかります。じっくり待ちましょう。

ひとつき ひとバラ



文：田中　伸枝
（いわみざわ公園バラ園）

第百四回

クライミング ローズ

ローゼンホルン

Rosenholm

作出国：デンマーク
作出者：Olesen
作出年：1988 年
ハーディネスゾーン：Z6
繰り返し咲き
交配：不明

ローゼンホルンは超遅咲きのバラです。当園のバラの見ごろは 6 月中下旬～ 7 月中旬ごろで、7 月中旬ごろになるとほとんどの品種はピークを過ぎ、繰り返し咲き性の強くて早咲きの品種なんかはもう 2 番花の時期になります。そのころにの～んびり見ごろを迎えるのがローゼンホルンです。バラ園に入ってすぐの大きなトレリス 3 本にもりもりと花を付け、大変目を惹きます。当園の見ごろを延ばしてくれていると言っても過言ではありません（!?）花はライトピンクの小輪八重咲きで房となり、香りはありません。咲き始めは花弁が反ったバラらしい形をしていますが、咲き進むにつれてぽよぽよしたポンポンのような形に変化していき、著しい褪色も無く花保ちが良いです。葉は照葉でダークレットで花色とのコントラストが良い感じです。

小輪で花付きの良さからランブラーだと思われそうですが、実はフロリバンダ系統のクライマーです。繰り返し咲きで、当園でも一度試しに切り戻しをしてみたことがありましたが、2 番花が 11 月の上旬ごろに咲きました。ギリギリ 2 番花が楽しめそうですが、つるバラの 2 番花の量なんて知れてるし、北海道では年一度と思っておいたほうが良いかもしれません。本州ではどんな感じなのでしょうか？冬は誘引を外さずトレリスごとネットで囲んでしまいます。ハーディネスゾーン６でちょっと厳しいかな？と思いきや意外と丈夫です。きっと血筋（交配）にヒミツがあるに違いない…。たまにうどん粉病を見かけますが、枝の込み具合など通気性に配慮すれば病気面も問題ないでしょう。あとは生育ものんびりなので、最初は枝が伸びなくても定着するまで数年じっくり育ててみてください。

ローゼンホルンは、デンマークの Poulsen Roser A/S が 2000 年に発表（1994 年という記載もあり）し、Courtyard® Collection のバラでもあります。同コレクションは樹高に応じてトレリス、パティオ、クライミング、ランブラーの 4 タイプ約 40 品種のバラがあります。特徴は普通のクライマーと違い丈夫で、花の付き方が違うとのこと。確かに、普通のクライマーと違って株元から上のほうまで花がびっしりです！他の品種も育ててみたいですね。おススメな品種ではあるものの、流通が非常に少ないと聞いたことがあります。調べてみたところ、ヨーロッパ、アメリカではパテントがありますが、カナダでは 2004 年に登録され 2011 年に権利放棄されているようです。海外では不人気なのかまたは生育が良くないのか…同コレクションの他品種もあまり見かけたことがないので、シンプルに流通がうまくいっていないだけかもしれません。

今月の市民園芸講座のご案内

●8月26日（土） 10:00~12:00 ばらゼミ⑥ バラの歴史と香りの話
料金：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈さん ローズグロワー

●8月27日（日） 13:00~15:00 花木・庭木の剪定と管理
料金：無料 定員：40名 講師：川原 元信さん フラワーマスター

～９月１日 ９：００から受付開始～
●9月10日（日） 13:00~15:00
飾ってたのしい植物画～バラ園の樹や植物を描こう
料金：材料代100円 定員：10名 講師：木下 京子さん フラワーマスター

●9月18日（月・祝） 13:00~15:00 楽しいキノコの見分け方
料金：無料 定員：40名 講師：伊藤 幸秀さん 日本自然保護協会

●9月23日（土） 10:00~12:00
ばらゼミ⑦ 来年に向けての土壌改良と移植準備
料金：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈さん ローズグロワー

●9月24日（日）・10月1日（日） 13:00~15:00
バラ管理スタッフのローズツアー・秋
料金：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

●9月30日（土） 13:00~15:00 バラ園のバラを使ったアレンジメント
材料費：2,000円 定員：20名
講師：大和田 由紀子さん カンガルーファクトリー

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。
電話 :0126-25-6111 ホームページ :https://iwamizawa-park.com/
※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。
連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。
※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日３～４日位前までにお申込みをお願いいたします。
※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。

編集・発行 空知リゾートシティ株式会社（いわみざわ公園バラ園指定管理者）
お問合わせ いわみざわ公園バラ園 室内公園「色彩館」 0126-25-6111